

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200421		
法人名	有限会社 しあわせ		
事業所名	グループホームしあわせ		
所在地	三重県四日市市水沢町横堀5-137-1		
自己評価作成日	平成31年 2月 16日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490200421-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2490200421-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 3 月 4 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の鈴鹿山麓をみわたせる環境の中、笑いあり、時には涙もみせながら和気あいあい日々を過ごしております。  
手作りの食事を召し上がっていただき、常に音楽を聴きながら楽しく歌い、健康であることを意識し生活していただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年5月1日開所の事業所は、広い敷地内に母体法人運営の通所介護、有料老人ホーム、短期入所生活介護、居宅介護支援センターが併設され地域に密着した事業所となっている。調査当日午前中静かにされていた利用者も昼食後は、笑顔で話をしてくれる、握手の歓迎をしてくれる、初対面に涙ぐまれる、素敵な歌を聞かせてくれる等様々な表情を見せてくれた。職員が皆笑顔で温かみが感じられ、家庭的な雰囲気の中で、「幸せな日常」・「思いやりのある介護」を実践している。また従業員の8つの心構えを日々振り返り、利用者に寄り添い、一人ひとりの思いを大切に、自然豊かな環境の中で楽しく生活している事が、利用者の笑顔から伺える事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に、理念と8つの心構えを共有し、実践につなげている。	法人の理念と従業員の8つの心構えを、日々の業務の中で振り返りながら実践しているが、開設間もないことから、事業所独自の理念を構築し共有する環境に至っていない。	法人理念を身近なものに感じ、地域密着サービスとして、日々実践に活かして行く為に、事業所独自の理念を全職員で話し合い作成され共有し、支援の場所で実践されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設して間がなく、交流できるように努力している。	職員が地域ケア会議に参加したり、法人の行事を通して地域交流はしている。ボランティアによるハーモニカ演奏や地域の方から頂いたスイカでスイカ割を楽しんだ。また、地域の文化祭に作品を展示し、利用者も参加して住民の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	複合施設として併設されており、長年にわたる地域の方々との関わりを通して、貢献できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で意見の交換や、地域行事に参加できるよう提案・助言をいただき、活かしている。	事業所から活動報告や入居状況の報告をし事業所の理解を得てる。事業所からは、認知症に関して基本的な知識や関わり等について話し、地域の参加者に喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議を通して日常生活を報告し、電話連絡等で助言をいただいている。	開設間もないことからグループホームの在り方や内容等の相談をしたり、事業所状況を電話で伝え積極的に協力関係を築く様に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を開催し、常に話し合いをしている。	身体拘束防止委員会があり、月1回の職員会議で全職員が話し合っている。日常の介護が多忙であることから利用者が不安になるような気になる言葉かけは、その都度職員間で注意し合い言葉による拘束をしない支援に取り組んでいる。「身体拘束廃止の指針」を事業所独自で作成し、基本的な考え方を全職員で勉強している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、学ぶ機会を作り、職員間でも悩み・不安を相談しあい、虐待に陥らない環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して制度を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、ご家族に説明・納得していただき、書面に残している。不安な点があるときには、随時ご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今後、家族会を開催し、現状の把握・意見交換ができるよう、予定をしている。	「しあわせだより」で日々の状況を伝え、来所時に意見要望を聞く機会とし安心してもらっている。家族の意見を傾聴し、それを参考に利用者が安心できる支援を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見を出しやすい関係を作り、反映できるように心がけている。	月1回の職員会議や申し送り時に意見を出し合っている。管理者は介護に関する職員の意見を日々の業務の中で聞く事が多く、普段から意見が出しやすい雰囲気づくりをしており、勤務体制についての提案で勤務体制を一部整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場であるよう、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を受ける機会を作り、職員同士がケアの実践につなげるよう勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議では話を聞くことはあるが、同じグループホームでのネットワーク作りはこれからの課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様にお聞きし、本人様の様子を見ながら支援することで、信頼関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭で介護することの困難な問題をお聞きし、対応させてもらうよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援および金銭面をも、ご家族と相談しサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と家族の一員として、寄り添った介護をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に変化があればすぐに連絡し、面会時には日常の様子をお伝えし、支援体制を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪していただけるような、環境を作っている。	本人の思い出や若い頃について話す機会を持ち、関係が途切れない支援を心掛け馴染みの継続支援に努めている。孫の訪問で喜ばれ号泣される場面もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い仲の良い関係ができているが、孤立してしまわれる方は、職員が対応させていた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様より相談があれば、お話を聞かせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いをお聞きし、できる範囲で希望に添えるよう検討している、	家族から聞き取った入居前の状況や生活歴を全職員が把握している。把握した情報は個人記録に記録し、全職員が記録に目を通しサインし共有の上、その人らしい暮らしが出来る様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様がお忘れになっていることは、ご家族の訪問時にお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し、できることに目を向け、介助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で個別に課題を出し合い、介護計画に反映させている。	月1回の職員会議でモニタリング、個人記録から主治医・看護師の意見も参考にして介護計画作成者が計画を作成している。家族の意見も面会時に聴き取り個人記録に記載して、計画に反映できるようにし現状に即した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を記入、情報を把握し、提案・実行に移し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組むことが今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターの月一回往診があり、状態の変化があれば報告し、受診している。	主治医・看護師の連携で適切な医療が受けられている。職員と看護師が利用者の健康管理をしており、状況は個人記録に記載し、主治医にファックスで報告して指示を受けている。歯科は月1回の在宅療養管理指導を受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早急に病状を伝え、適切な判断をし、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院側の相談員と密に連絡を取り、相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、家族と相談し・意向を聞き、取り組んでいる。	事業所でできる事と出来ない事を説明する機会を何度も持ち、家族が不安にならない様に対応している。看護師が勤務し主治医の訪問診療があり、今後看取りについて前向きに取り組もうとしている。	方針の統一、共有が重度化や終末期支援に重要であることから看取りに向けた職員の研修と信頼できる医師と医療関係者との連携を万全にして、事業所独自の「看取り指針」を作成し、前向きに取り組まれることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	民生委員様等と災害時について話し合い、協力体制を築いている。	消防署の指導の下、夜間火災を想定した避難訓練を実施している。災害時に備えて消火器の再確認・搬送方法の確認等をし、災害意識の高揚に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による虐待のあることをふまえ、言葉かけには注意をはらっている。	利用者の性格や気質を職員は意識し、何事にも笑顔で接し、言葉かけには特に注意している。優しく笑顔で声掛けする事で利用者の気持ちが落ち着く様に心がけてる。個人情報等の書類は、書庫に保管しプライバシーを保護している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望をお聞きし、決定していただけるよう対応はしているが、難しいこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援ができるよう、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも清潔な服装であるよう、支援している。好きな洋服を選んでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る作業は難しいが、食器洗い・拭くことはできる。おやつ作りは一緒にしている。	食事前に全員で口腔体操をして、おいしい物を楽しく食べる工夫をしたり、利用者に希望を聞く等して希望に応える様にしている。誕生日食や職員全員が1品ずつ手作りのお食事バイキングは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を把握し、不足している方には摂取していただけるよう声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に、全員で口腔体操をしている。おひとりずつ食後の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみてトイレの声掛け、誘導をしている。	排泄チェック表の記録を参考に全職員が個々のパターンを把握し、自立排泄の支援をしている。優しい声掛け誘導で排泄の失敗の羞恥心や不安への配慮には特に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	配膳の確認はしているが、飲食物の工夫・運動での予防にはつながっておらず、今後取り組む課題である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人での入浴が難しいこと・職員不足により決まった時にしか入浴できていない。	個室を完備し職員が健康管理を行い、週に3回午前中の中の入浴を提供している。柚子湯で季節感を味わい入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に応じ支援させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にお薬の説明ファイルを作り、薬の用法等を確認している。症状の変化にすぐ気が付くよう観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽を聴いたり、散歩をすることで気分転換をはかり、洗濯物たたみ・マッサージ等、身につけているお仕事をさせていただくことで、役割をもって生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や外出レクなどでの外出はしているが、本人の希望に沿った職員以外との外出を支援することはできない。	洗濯物を干したり、ゴミ捨てや花壇見物に職員と一緒に役割を持ち、屋外に出る事で利用者は生きいきと生活している。車で出かけたコスモス見学・紅葉見学は、利用者に笑顔が見られる外出になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方はみえるが、お店でお買い物に出向くことがない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやりとりは、希望があればしている。手紙は、季節のあいさつ程度のものを本人からは送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調設備を整え、四季折々の行事を行うことで、季節感を味わっていただいている。	天井が高く、天窓を設置し天候が良ければ、自然の採光が入り明るく暖かい。アイランドキッチンを設置し、見通しの良い環境で安全に配慮されている。フローアに紫色の素敵なソファが置かれ、ゆったりとしており居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に席を移動でき、お話ができる環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使いやすい家具や配置を、ご家族と決め、安全に生活できるように考慮している。	エアコン・ベットは備えついで、その他身の回りの物は使い慣れたものを持ち込み利用者の好みの空間となっており、居心地良く過ごせる工夫がされている。「窓が大きく見晴らしがよく気分が良い」と利用者や家族に好評である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりを心掛けている。		